

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	平成21年8月26日	評価結果市町村受理日	平成21年12月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171900067&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成21年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員間に上下関係はなく、何でも言える環境を築いている。そのため、ミーティングや申送りの時、鋭い意見も飛び出す。良い意見が出れば即実行に移す様になっている。又、職員が介護疲れしない様職員の人数には余裕を持ち、休日を多く取れる配慮をしているので、皆、元気で明るい職員ばかりだ。こんな伸び伸びとした職場なので、外を通る人々にもアットホームな感じが伝わり、職員の顔を見れば挨拶してくれる。地域との関係は強力で、奇数月に開く運営推進会議には、区長を始め、区の役員、民生委員、市役所職員、包括支援センター職員などが集まり、それぞれが非常に協力的だ。区が行なう大きなイベントなどには必ず招待され、又、830世帯を越す地域なので、回覧板も100部作成し、ポロ布募集の時は、多くのポロ布が集まって来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域のなかで普通の生活が実感できるように、誰でも自由に出入りができ、いつでも外出できる体制である。身体能力を維持する為、手ずりは高めに取り付けてあり、階段昇降や山の散歩・ホーム独自の歌の合唱をしている。入居者の生活を最優先に考え、どんな些細な事も朝夕の申し送りに引き継ぐ努力で切れ間のないケアを提供している。月1回のミーティングは、業務として全職員が参加しやすい夜間に開催している。入居者に質の良いサービスを提供する為に、職員の研修や資格取得への配慮で自己研鑽がしやすい職場である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域理念は、朝夕の申送り時に復唱し、地域の回覧にポロ布等を募集した際は、地域の方々が持参されたり、電話を頂いて取りに行ったりしている。	個人が尊重され、安全で安心できる生活をおくる為に、叱らず制止せず今できる事を行ってもらう事を理念としている。入居者のペースを最優先し、普通の生活が継続できるよう全職員が毎朝、唱和し確認しながら日々の介護を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春・夏・秋等の地域のイベントがある時は誘われ、又、地域の方々のボランティアによる訪問等を受け、遊びを通じた交流は年々深まっている。	自治会に加入しホームの取り組みや様子を回覧板で知らせたり、双方の行事にお互いに行き来し、常に地域住民とつながりがもてる関係を築いている。地域の図書館やコミュニティセンターに出掛け、ボランティアや授産所との交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、毎回ホーム内の活動状況を報告し、認知症の説明も含め、利用者の認知レベルを把握して頂いている。又、連載は組んでいないが、地域の回覧板にホーム内の事や、認知症に関する記事を載せている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回ホーム内の活動状況を報告し、委員会メンバーからは質問や意見、地域の状況の説明を受け、イベント参加などのサービス向上に努めている。	定期的に関係者が集まる事で、様々な提言や助言を聞く場になり、ホームの運営に生かしている。行事報告に限定せず、運営委員からの情報提供も生活全般に拡大し、ホームの困り事には力を貸してもらえ良い関係作りができています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、地域包括センター職員とは常に連絡を取り合い、「市役所からのお知らせ」やお互いの行事など、サービスにつながる様な事は協力し積極的に取り組んでいる。	市の行事や催し物には、入居者の作品を展示したり、手作りの手芸品と一緒に販売し、協力できる体制ができています。運営推進会議での連携のみで、積極的な取り組みに至っていない。	市や行政との接点は運営推進会議が主となっているが、ホームから前向きな働きかけや市事業を受託する検討も考慮されたい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝夕2回の理念を確認し、利用者の暮らしが楽しくなるよう反省をし、日々向上を目指している。利用者に対しては常に目を向け、その時々々の状況に応じた声掛けをしている。	玄関にチャイムは設置してあるが、昼間は施錠せず外に出掛ける気配があれば、職員と一緒に付き添っている。ミーティングや日々の申し送りで、身体拘束について常に話し合いをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を学んで来た者は、ミーティングの際発表を行い、職員に終始徹底を図っている。又、利用者の身体に少しでも異常が見られた場合は、即刻、管理者、職員でミーティングを行い、虐待防止につなげている。		

グリーンホーム かさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のシンポジウムには出席し、常日頃権利擁護に関しては話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際、家族が納得する様説明し、承諾していただく。又、不安、疑問がある時は安心して利用出来る様、常に管理者、職員が相談にのる様日々努力している。残念な事に、施設入居に慣れている家族は、真剣に聞いていない様にも思われる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に明るい雰囲気作りをし、玄関に苦情箱を設置する等、いつでも相談にのれる様日々努力している。又、その意見を送り、ミーティングで話し合っている。殆んどが、直接管理者や職員に言われている。	玄関に苦情箱を設置し、誰でも要望や意見を言いやすくしている。面会時に家族等から聞き出す努力や遠方の家族には電話や手紙で意見を聞いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のミーティングの折に、鋭い意見もあるが、代表者、管理者、職員の区別なく、良い提案、意見があれば即刻実行される。日頃から管理者と職員とのコミュニケーションが良くとれており、意見交換がし易い雰囲気作りになっている。しかし、時間が短いので把握されない部分もあり、今後ミーティングを月に2回行い、全ての職員がきめの細かいミーティングを出来る様にした。	全職員が参加しやすい夜間時間にミーティングを開催し、活発な意見交換やケアの向上に向けた話し合いをしている。改善点や気になる事項については、必要性を全職員で検討し、ホームの運営につなげている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に代表者も現場におり、話し易い場を作っている。日頃から意見交換をし、働き易い場を作っている。職員の資格取得に向けた支援を行なっていて、管理者、職員全員が良くして行きたいと思っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員に対して、法人内では経験豊かな職員が交互につき研修に当たる。法人外では、管理者の研修は多いが、一般職員の研修が少ない為、現在他ホームと職員間の交流研修を検討中。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前一度職員の交流を行なったが、その後立ち消えになってしまっている。現在、他ホームとの交流話がまとまり、近日中に実施予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、管理者は本人と納得するまで話し合い、その結果を職員に送り、本人を不安にさせないよう努めている。職員は、本人の話を良く聞き、不安にさせない様努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、管理者は本人、家族、医師等と納得するまで話し合い、その結果を職員に送り、家族を不安にさせないよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	納得する話し合いの中から、本人と家族等の「その時」まず必要としている事が分かって来るので、他のサービスが必要な場合は、進んで支援の援助を行なっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の知恵や工夫を毎回聞き、仕事を共有したり共に働いて、楽しい日々が送れるような雰囲気作りをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者の日々の生活をよく把握し、状況を手紙で報告したり、面会の際には情報を提供したりと、利用者と家族の潤滑油に心掛けている。しかし、家族が遠方の場合は、なかなか家族も訪問できない為、コミュニケーションをとる事が難しい。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院、また命日の墓参り等は家族に協力してもらい、家族がいない人は管理者、職員が協力し出向くようにしている。	入居者から思い出を聞き出し、住み慣れた場所を通りドライブしたり、墓参りに出かけている。年賀状を書いたり電話で知人との会話が楽しめるよう支援をしている。お盆や正月は家族と共に、過ごせるようにしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に談話したり、又、レクリエーションを通じて利用者同士の関係が上手いよう職員が支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退所後も、見舞いに行ったり家族の相談や支援など、必要に応じて連絡に心掛けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をしたいのか、誰に会いたいのか、常に様子を伺い、それとなく声掛けをし言葉や表情から何を要望されているかを把握するよう努めている。又、本人からの要望で、電話を本人から家族に掛ける事もある。	これまでの生活体験を活かしながら、様々な場面で意向を把握する努力をしている。入居者がつぶやく言葉や仕草を見逃さず気づきノートに記録し、職員はできる能力や意欲を引き出す工夫をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から、個々の食事の好み、趣味、昔話などを聞き、これまでの生活の情報を集めるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前と午後に個々の利用者が1日をどう過したか、何か特別な変化が無かったかを日報に記入。また、本人の小さな動作や心の動きが顔に表れたりするのを殆んどの職員が把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化がある都度利用者との話し合い、家族との話し合い、主治医等との話し合い、職員同士の話し合いにより、より一層現状に即すようにしている。	食事・排泄・入浴等が一目でわかる生活リズムパターンシートを活用し、全職員が常に状態把握し、観察と気づきを心がけている。主治医・家族も含めて全職員で話し合いながら、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	エピソード、気付きノートが2冊あり、全ての職員が出勤の時、まず記録を読むようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の通院、銀行へ行く時等の付添い、送迎など柔軟に取り組んでいる。		

グリーンホーム かさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して得た情報、コミュニティーセンターや図書館等の地域資源を活用させて頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のある利用者は、かかりつけ医に通院し、かかりつけ医のない利用者は月2回の訪問診療で受診できるようになっている。又、通院の場合は家族が無理な場合は職員が付添う事もある。	月2回は協力医が往診しているが、入居前からの主治医に家族や職員の協力で通院ができる。どの医療機関とも情報交換や連携できる協力体制があり、夜間等は、指示が得られる関係になっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいない為、介護職員が体調、顔の表情の変化を見逃さないようにし、異常がある場合は主治医に連絡するようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、管理者は毎日利用者を見舞い、病院関係者と密に情報交換をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化する様な疾患を持った利用者の家族には、重度化した場合の事を思っ、他施設(例:特養)への申込み早めに行なう様、入居時から話し合っている。	ホームで対応できる範囲を入居時に説明し、全職員が方針を共有している。入居者や家族の意向をできるだけ尊重し、主治医や医療機関と常に連携している。体調を確認しながら他施設への転院等も含め相談に乗っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が消防訓練、救急救命訓練を定期的に行ない、実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全ての職員が防災訓練、避難訓練を定期的に行ない、実践力を身に付け、避難経路、避難場所等は地域との協力体制が出来ている。	年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。毎年自治会と支援・協力依頼協定書を交わし、非常時の協力を依頼している。食料・布団・シート・紙オムツ等を備蓄してある。職員が手薄になる時間帯での避難に不安がある。	夜間の就寝場所が2階であり、職員体制も手薄となる為、夜間を想定した避難訓練を実施し、地元との更なる協力体制を築かれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の会話時、内容や口調など本人の尊厳を無視しないよう声掛けや対応に配慮している。	入居者のペースを尊重し、穏やかな口調でわかりやすく説明したり、話をゆったりと聞く努力をしている。トイレ誘導時は、さりげない声かけや他の入居者に配慮しながら対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、本人の希望で家族に電話をしたい時や外出したい時は、状況を見極めて支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば朝の起床時、もう少し布団の中になりたい場合は、無理に起こさず、その人のペースに合わせているようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	例えば朝の着衣に関しては、本人の意向で決めており、支援が必要な時にはアドバイスをこなう。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手なものを踏まえた上でメニューを工夫し、味は勿論、目でも楽しんで頂けるようにしている。又、時々利用者の要望をメニューに取り入れられたりし、お手伝い出来る人には出来る範囲で、盛付や後片付けを行なってもらっている。	入居者が栽培した野菜を使い、調理法を教えてもらい一緒に食べている。準備や片づけをしながら、メニューの希望を聞いている。個々の利用者に合わせたより細やかな食事の配慮がされていない。	病状に合わせた食事内容のチェックや相談を専門職から受けたり、献立表にて食事への期待感を膨らませる方法も考慮されたい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量も個々に把握し、水分量も記録し、体調の変化にも気を配るよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、口ゆすぎ等出来る人と出来ない人が居るので、出来ない人に対しては指などを入れて支援している。		

グリーンホーム かさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄状況をチェックし、利用者に合わせ声掛けや誘導をする。紙パンツ、パットも利用者に合わせて検討する。	生活リズムパターンシートを活用し、排泄リズムを把握している。身体状態に合わせてパッドやオムツの種類を考慮し、日中はトイレ誘導し自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫は勿論、水分補給もチェックし、どうしても薬を使用する場合は、個々の状態に合わせて、使用量、使用日数などで工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調、気分を考慮し、本人の意思にそって入浴支援をしているが、毎回入浴を拒む方には、職員が声掛けや対応の工夫をし、チームプレー等によって入浴支援をしている。	おおよその入浴日や時間は決まっているが、毎日希望があれば入浴ができる。シャワー浴や足湯をしたり、ゆったり入れるよう柔軟に対応している。保温効果が高い入浴剤を毎日使用したり、季節のしょうぶ湯等を取り入れている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はよく眠れるよう日中の生活リズムを整えている。体操、レクリエーションを通して、身体を動かしたりする事によって安眠出来る様にする。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容、分量、副作用などしっかり把握出来るよう記録を確認したり、直接会話で申し合わせている。服薬の準備と手渡しする人がいて、各々が確認試合、間違いがないよう必ず2人で行なうようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来る仕事をお願いし、手摺り拭き、茶碗拭き等の軽作業を行なって貰っている。趣味を持っている方は趣味に没頭し、昼寝を得意としている利用者もいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ、天気の良い日は利用者の体調に合わせ、ドライブに出かけたり、喫茶店へコーヒーを飲みに行ったり、又誕生日には担当職員と外食やショッピングなどに出かける。	個々で外出計画を作成し、毎日外出する事を日課としている。気分転換と筋力低下の防止を図る為、体調に合わせて車でドライブに行ったり、入居者の体調や希望を聞きながら行き先を配慮している。ホームの買い物に同行したり、回覧板も一緒に届けている。	

グリーンホーム かさはら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族と利用者が相談し納得した上で、小額を所持して頂いている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望により家族や友人にはいつでも電話を掛けられるよう支援している。葉書や手紙も自由で、特に年賀状は全ての利用者を書いて頂く。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所、食堂等は一般家庭のダイニングキッチンのように職員が目も行き届き、広さも充分あるので暖かい感じがする。利用者にとっては障子、畳、長椅子のある居間なので利用し易いようにしてある。玄関、ホールには、毎月季節に応じた作品を展示したり、共用の空間は常に清潔にし過しやすい様にしている。</p>	<p>廊下や居間にはソファを置き、畳で仕切られた空間もあり、自由に過ごせる場所となっている。壁面には入居者が作成したカレンダーや小物を飾り、玄関の空間を生かし手作り小物を置き、家庭的な雰囲気作りをしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールには畳の間とソファー・テーブルが設置してある場所があるので、各自自由に過ごせるようになっている。又、廊下にもチョットしたベンチがあり、そこでくつろいでいる利用者もある。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タンスの上には孫の写真や仏様が置いてあり、各自それぞれが(自分で)安心出来る様な工夫をされている。</p>	<p>慣れ親しんだタンス・イス・ベッド等を持ち込み、自由な配置で暮らしている。思い出が詰まった仏壇にお参りしたり、誕生祝いにももらった似顔絵や家族の写真を飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>時計やトイレなどの表示は、低い目線で見られるよう低い所に付けてあり、表札もひらがなで見易い位置に取り付け、分かり易くしてある。</p>		